

世田谷村日記

石山修武

五月二三日

どんよりとした曇り日で、もう梅雨に入ってしまったのかといぶかしむばかり。意外と私も天気男なんだな。午前中院レクチャ―。午後野村・丹羽打合わせ。猪苗代計画。

五月二四日

取材で中里和人と塩釜、一ノ関。ベーシーで久し振りに菅原正二と再会。高橋邦夫さんとも会えた。西谷主任と連絡、学科ですめていた件の一つはうまく行かなかった様だ。仕方ない。別のやり方で頑張ろう。うまくゆかぬことだけは連続するから気をつけよう。

五月二五日

今日は日曜日の筈だ。朝七時過一ノ関の蔵ホテルでメモを記している。色川武大さんはベーシーと菅原が気に入って、ここ一ノ関で客死したんだが、その気持はわからぬでも無い。別のスタイルで菅原も品が良くなっている。加速度つけてるな。十一時半世田谷村に戻る。休み昼食をとって十三時四十五分、又出る。十六時十五分JALで沖縄へ。飛行機はグッスリ眠った。ドスンと音がして気が付けば沖縄。アトリエ・モービルの丸山さんに機内でお目にかかる。照屋君空港に迎えに来てくれてハーバービューホテルに投宿。これだけ疲れていると、何だか夢うつつたな。照屋

君とメシを喰って今、二十二時過ホテルに帰る。体はボロボロ、どうなる事やら、やっぱり単騎独行がいいのかな。

五月二六日

昨夜はグッスリ眠った。しかし、まだ眠り足りぬ。目覚めれば那覇のホテルの一室。上海まではどうにか一人で動かせるのだが、他はどうか。プノンペンもそろそろ結着をつけたい。

八時ホテルのデスクでメモを記している。鏡に疲れた自分の顔が映っている。体力を一杯使い切っていて危険なのは自覚できているのだが、制御する術を知らない。そう言えば昨日、機内で会った丸山さんには学生時代大変世話になっていた。二年生のエスキスでは良くおだてられて、それで、うぬぼれの強い男になつてしまった様な気さえする。マ、そればかりが原因ではないけれど。丸山さんはチョツと体をコワしたと言っていたが、五、六年前に確か大病されたと風のうわさで聞いていた。折角十数年振りに会ったのに、グッスリ眠り続けてしまつて悪い事したな。近況その他お聞きすれば良かった。那覇に事務所を開設していると言っていたが、大変なんだろうと憶測する。名刺くらい、いただけは良かった。昨日は東北の一ノ関に居たのだよね、確かに。菅原正二と仙台のプラネタリウムをジャズホールに改装する話をしていた記憶があるが、定かではない。今、八時十五分過。八時三〇分に照屋君が迎えに来るからそろそろ仕度して下に降りようか。ここは七階か。十時名護市北部広域事務所岸本理事長と面談。困難さにとり囲まれているが、頑張る。沖縄の方々が言う事は、もつともな事だ。しかし、私にも、ある種の道理はあると考えて進めているのだから困難さに直面する事になる。十二時名桜大学比嘉理事長に面談。ワークシヨップ協力を依頼する。十三時過名護

市役所前で休んでいる。象設計の役場は屋根にブルーゲンビリア咲き乱れ良い光景である。梅雨の合間の陽光が降り注ぎコレはやっぱり良い建築だ。象の人々はこの旗印を明快に論理づけて世界に進出すれば良かった。マ、他人の事は言えないけれど、機を逸した感がある。されど、この建築には良い風が吹いているよ。十四時半ホテル日航ロビーで尚先生にお目にかかる。伊是名で尚家ゆかりの場所を体験していたので、琉球王朝の尚家当主にお目にかかっていてもその歴史が感じられて感慨を新たにした。ワークシヨップへの協力、そして参加を依頼する。こういう我ながら不思議な努力と比べてみると、建築をつくることは比較的容易なんだと思う。願うらくは無駄な努力、すなわち徒労に終わらぬ事。十七時過那覇空港でメモを記す。体調悪し。横になりたい位。十八時二四分東北地方で震度6弱の地震があったと空港内のTVが伝える。幾つかの建築が心配だ。二〇時十五分前磯崎新の「建築に於ける日本的なもの」読了。今どの辺りを飛行機は飛んでいるのだろうか。イセ、カツラ、重源と歴史的事件をとりあげ、後半の論を構築している。イセ、カツラに代表される日本的なモノを重源による構築性という非日本的なモノ、異物によって、あるいは前半の論自体が磯崎自身を非日本的なモノとして論ずることで白日の許にさらそうとしている。日本的なモノを批判的に切り刻むことで日本から自由になろうともしている。そこが見処だ。こういう書物を読んでいると、日々の小事でクヨクヨ、セコセコしている自分が、情けなくなるな全く。これ位の事で疲れた、疲れたと弱音を吐いている自分がイヤになるな。磯崎新は書物さえ建築を建てる如くに構築している。イヤ正確に言えば構築し続けた。書物、あるいは言説が建築そのものであるような世界を彼はすでに視ているのであろうか。だとすれば、それが磯崎論のも

う一つの入り口になるかも知れぬ。

五月二七日

学部レクチャー、日本近現代住宅史は今日で終り。十六時烏山寺町。妙高寺打合わせ。夜、地下ゼミ。

五月二八日

朝七時前、起きて、ミス・フアンデル・ローエのバルセロナ・パビリオン小論書く。又もやメ過ぎて、追われるように書く。九時修了。追われて書く和我ながら面白いモノが書けているような気がするが、こんな事が続くわけもない。屋上菜園に生ゴミを埋め、庭を眺める。十四時首相官邸。十五時早稲田へ発つ。

朝の屋上菜園に思いがけなく咲き乱れていた荻の花を、地下鉄の中で思い起こしていたりする。十六時半Gスタジオ。課題に対してわざわざニューヨークまで写真家に会いに出掛けた奴がいるそれで良い。二〇時過、中国大陸の仕事が又、入ってきた。どうするか。二時半京王線車中でメモを附している。世田谷村に帰ったら、ビール飲んで寝ちゃおう。起きていればイラつくばかりだからな。

五月二九日

八時三〇分世田谷発。中央高速で富士嶺の現場へ。十時半聖徳寺現場。鉄骨工事は良く出来ている。プロポーシオンも良く、アトは仕上げだ。床下の炭の配置の指示をして、十一時スタツと別れ富士吉田へ。今、十三時前甲府への鈍行列車の中で気持の良い時間を過している。各駅停車の至福だな。ガラガラの車内では乗客は皆、一人で一ますのシートを占拠して眠り込んでいる。今、

山梨市のようなだ。この速度は良い。今に一番合っているような気がする。駅弁のカマ飯喰べて眠くなってきた。十三時三二分甲府で特急に乗り換え、又、速力がちがってきってしまった。スタッフから渡されたスケジュール表通りに動こうとしているのだが、汽車の時刻が全て、現実とズレている。やっぱり何処か、抜けてるよね。しかし、スレスレに動いているのが笑える。風が吹いて、車窓近くの山が動いている。小学生の頃見たモノクロ映画風の又三郎を思い出すなあ。十四時十一分茅野着。角大製材所の奥さんが駅まで来てくれて、製材所へ。棟梁細田佑二さん、角大さんと打ち合わせ。何とか、やってくれそうで、棟梁と大方の感じをすり合せる。藤森照信のたんぽぽハウスを手掛けた棟梁だ。大方の合意らしきを得た。聖徳寺の床の相談も。彼等が作った酒飲み小屋を見て、茅野駅ヘトラックで送ってもらう。サグラダ・ファミリア大聖堂の現場に外尾悦郎と時代モノのベンツのトラックで行った道中を思い出す。トラックは好きだ。予定通り十七時二六分のスーパーあずさで帰る。こういうリアルな打合わせはストレスがなくて良い。例え、中身がハードでも。十九時三六分新宿着。二〇時半前世田谷村着。打合わせ。二十一時三〇分終了。休む。